

産官学連携フェスティバル2008 ポスター発表申込書・要旨原稿

テーマ	ローコストによる古民家修復手法の開発（Ⅱ） －住むことと修理することの実践をとおして－
発表者	鳥取環境大学・環境デザイン学科 教授 浅川 滋男
概要	2006 年度から鳥取市倭文の登録文化財「加藤家住宅」で学生参加の修復・改修活動が続いている。2006 年度は小型の油圧式ジャッキを用いて、柱を宙に浮かせ、土台の取り替え、柱の根継、柱傾斜の補正をおこない、また鉄板を垂木上に打ち付けただけの屋根を二重の板で断熱層を設けた鉄板葺きに改めた。以上の活動は施主の資金供与により、工務店を主体とし学生が補助する体制で民家の主要構造部および屋根の修復を実施したもののだが、2007 年度は工事のための予算がなく、学生主体のセルフビルド&ゼロエミッションによる内装整備を進めた。活動は以下の5つに分けられる。

1. ロフトの内装整備 昨年度、屋根の改修にともなって設置したロフトを「アトリエ」として再生するために学生が自らその内装を考え、まずは模型を制作した。加藤家住宅で廃棄予定の家具、あるいは鳥取市廃棄物処理場のフリーマーケットで入手した極安の家具を修理・補強し、模型のレイアウトに基づいて配置していった。このアトリエでは、昨年度修復に携わった職人さんと意見を交換する「ロフト座談会」を開催した。この座談会の成果は報告書に掲載している。 2. 階段と手すりの整備 ロフトに上がるために1本梯子を用いていたが、あまりにも危険であり、単管足場を応用した架設的な階段を新設した。常設的な木造の階段ではなく、鉄パイプの階段としたのは、それが材質によって本来の施設ではないことを強調できるのと、いつでも解体可能で当初の土間空間に復元することができるリバーシブルなものだからである。また、階段とロフトが接する部分には手すりを設けた。この手すりは加藤家住宅の床下でみつかった古い木製梯子の側桁を転用した。 3. 1階欄間の修復 昨年度の建ておこし修復工事のために開かなくなっていた座敷の雨戸を、ジャッキアップして開くようにし、その部分の障子欄間の障子紙を管理さんの指導のもとに貼りなおした。これにより座敷と庭の連続性が清らかに再生された。また、土間の菱格子欄間は激しく傷んでおり、実測調査の上、当初の意匠に復元した。 4. さまざまな活用 春には「古民家の匠」の会、夏には「4年生卒論ゼミ」、秋には「六弦倶楽部練習会」「ロフト座談会」「とっとりく知の財産>活用シンポジウム」「弥生土器制作」などのイベント会場として修復中の加藤家を何度も活用した。 5. 報告書とパンフレットの作成 2007年8月には前年度修復工事の報告書、2008年3月には今年度の内装修復・活用の成果をアピールする冊子を刊行した。前者は工事の詳細な記録で、結論に「ローコスト修復のエッセンス」をまとめている。後者は、一般市民向けの読みやすいビジュアルなパンフレットとして編集した。なお、修復・活用の詳細については、加藤家ホームページのブログ「倭文日誌」でも随時公開している。
【来場者へのメッセージ】 鳥取市倭文の登録有形文化財「加藤家住宅」にぜひおいでください。いまだ修復中ではありますが、学生が居住しながら修復工事に参加した成果をご覧になれます。とくにイロリとロフトに注目してください！下においているパンフレットを自由にお持ち帰りください。そこに成果が凝縮されています。
連絡先： 鳥取環境大学・環境デザイン学科 教授 浅川 滋男 鳥取市若葉台北1-1-1 TEL. 0857-38-6775 E-mail: asax@kankyo-u.ac.jp
分野
その他(修復、リサイクル)